

第5学年 道徳学習指導略案

2組 計32人（男子15人，女子17人）

指導者 坂元大輔

- 1 主題名 あなたならどうする（B 友情、信頼／C 家族愛、家庭生活の充実）教材名「なくしたかぎ」（日本文教出版）
- 2 本時で目指す子供の姿

主体性	二つの道徳的価値の間で生じる問題を見だし、自分だったらどうするか判断理由や根拠を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考えを今後の学習や実生活に生かそうとする。
協働性	友達との「学び合い」を手掛かりに考えたり、議論したりすることを通して、二つの道徳的価値の間で判断する際の自分の考えを深めたり、広げたりする。
創造性	二つの道徳的価値の理解を基に、その間で生じる問題において、それらの道徳的価値を実現するための適切な行為を選択し、実践しようとする。

3 主題について

(1) 主題の位置とねらい

友情、信頼とは、相互の信頼の下、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくことである。家族愛、家庭生活の充実とは、家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深めることである。本主題では、二つの道徳的価値の間で生じる問題場面において、自分だったらどうするかを考える。その際、「学び合い」によって友達の判断理由や根拠を知り、理解することを通して、自分の道徳的な判断力を高める。そうすることにより、実生活において主体的に考え、問題を解決することができるようにする。

(2) 全体計画（別業）における本主題の位置付け

【全体計画（別業）】

体育「表現運動」（9月）：仲間との協力や関わりを通し、組体操の美しさを表現する。
かがやき（総合）「福祉」（10月）：祖父母等の家族との関わりを通し、家庭生活の充実を図る。

【本時】補充・深化・統合

11月「あなたならどうする」（B 友情、信頼／C 家族愛、家庭生活の充実）
『なくしたかぎ』 ※ 深く広い視点で物事を捉え、主体的に判断する（主体性）

【家庭や地域社会との連携】

あいご会活動で友達との友情を深めたり、家族との愛情を深めたりする。

4 子供の実態

本学級の子供は、日頃から友達と仲良くし、協力して活動に取り組んでいる。また家族のことも大切にし、自分に対する家族の思いや願いも概ね理解している。しかし、友達と家族の問題が同時に起こった際に、判断に迷って何もできなかったり、他者の判断を仰ぐのみになったりすることがある。そこで本時では、判断理由や根拠に重点を置き、主体的に考えることができるようにする。

5 教材について

本教材は、両親と6時までには家に帰る約束をしたあきらが、友達のかずおと公園で遊んでいた際、かずおの家の鍵がなくなってしまったため、一緒に探すか、両親との約束を守って家に帰るか悩む話である。友情か、家族との約束を守るかで悩むあきらの気持ちに共感することを通して、自分だったらどうするか判断理由や根拠を明らかにしながら、解決できるよう本教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 主体的な学びを実現する教師の手立て

判断に迷う問題場面を導入時に提示することで、自己を見つめ、現段階での価値観を明らかにし、自分事の問いをもって考える見通しをもてるようにする。終末時には、導入時の問題場面を再考させ、終末段階での考えを価値付けることで、今後を生かすことができるようにする。

(2) 対話的な学びを実現する教師の手立て

判断理由や根拠を基に、自分たちの考えを交流し合いながら分類・整理した後、各々の考えを明確にするために名前カードを黒板に貼らせる。そして友達や教師との「学び合い」を行うことで、道徳的価値の間で判断する際の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。

(3) 深い学びを実現する教師の手立て

友達や教師との「学び合い」による問題解決を行うことで、二つの道徳的価値のそれぞれの大切さや、状況によっては双方を解決できる可能性があることなど、新たな考え方や解決方法に気付かせる。そして、終末時に自己の考えの深まりや変容等を実感できるようにする。

7 本 時

(1) **ねらい** 友達と家族との間で生じる問題場面で葛藤する中で、自分事として判断理由や根拠について考えたのち、友達や教師との「学び合い」によってその考えを深めたり、広げたりすることを通して、道徳的な判断力を高め、主体的に実践を行うことができるようにする。

(2) **展 開** 教師の言葉掛け 子供の反応 ◆ 重点評価項目 ☆ICT 活用上の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
気 付 く (5)	<p>1 友達と家族のどちらを優先するかで判断に迷う問題場面を聞いて、自分との関わりを基に考える。</p> <p> こんな場面に出合ったとき、みなさんだったらどうしますか。</p> <p> 友達を助ける方を優先するよ。理由は友達のこのの方が緊急だから。</p> <p> 迷うけれど、家族を優先するよ。理由は家族を心配させたくないから。</p> <p>2 本時のめあてを立てる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達と家族との問題を解決するには、どうすればいいだろう。</p> <p>3 教材「なくしたかぎ」を視聴して、あきらとかずおの気持ちを捉えながら、2つの道徳的価値に関わる考えや解決策について話し合う。</p> <p>(1) あきらは、何と何の問題で迷っているのか考える。</p>	<p>○ 二つの道徳的価値の間で生じる問題場面を提示することで、自分の価値感を明確にし、自己を見つめ、自分事の問いをもって主体的に考えていく見通しをもてるようにする。【主】</p> <p>○ めあてを自分の言葉でワークシートに書き込むことで、問いを自分事として意識し、主体的に解決しようとする意欲をもてるようにする。【主】</p> <p>☆ 電子黒板で教材を読み聞かせることで、内容を把握しやすいようにする。</p> <p>○ 二つの道徳的価値の間で生じる問題を確認することで、考えていくことを焦点化できるようにする。【主】</p> <p>○ かずおの困っている様子を見たあきらの気持ちを考えさせることで、何とかしたいと同情する気持ちと、早く帰宅しなければと焦る気持ちの両方に共感できるようにする。【主】</p> <p>○ 自分だったらどうするか自我関与させることで、問題場面に主体的に考えることができるようにする。【主】</p> <p>○ 各々が自分の考えを明確にした後、理由や根拠を交流し合いながら他者の考えを知ることによって自分の考えを深めたり、広げたりする。「学び合い」で考えが変わった際、名前カードを貼り替えることで思考の変容を可視化できるようにする。【対】</p>
見 つ め る (27)	<p> ・かずおが鍵をなくして困っていること。 ・鍵探しを手伝うと遅くなり、両親を心配させること。</p> <p>(2) 自分があきらだったらどうするか、判断理由や根拠とともに考えたことをワークシートに記入する。その後、グループで紹介し合う。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">困っている友達をそのままにはできないから、一緒に探すよ。</p> <p>(3) 自分たちの考えを全体場で発表し合い、出されたものを分類・整理して、その中で自分の考えに近いものを選び、黒板に名前カードで示す。全体で判断理由や根拠を交流し合った後、自分の考えを再考する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">わたしなら先に帰るよ。なぜなら両親を心配させてしまうから。</p> <p> 状況を考えると、両親を心配させたり、しばらく自転車に乗れなくなったりするよりも、かずおさんの方が深刻な問題だと思うよ。私だったら先に帰らずに、かずおさんと一緒に鍵を探すよ。</p> <p> ぼくだったらいったん家に帰り、両親に事情を説明する。両親も安心するだろうし、一緒に鍵探しを手伝ってくれるかもしれない。</p>	<p>◆ 二つの道徳的価値の間で生じる問題について、自分との関わりで考えることができたか。【発言、ワークシート】</p> <p>○ 自分のめあてを基に本時を振り返ることで、自分の考えが深まったところや、新たな考えに気付いて広がったところなど、自己の成長や課題を自覚できるようにする。【深】</p>
深 め る (8)	<p> 私は最初、両親のことを優先しようと考えていたけれど、友達の考えを聞いたことで、鍵がないことの方が深刻だから、友達を優先しようと思直したよ。今後は何を優先すべきなのか、よく考えて生活したい。</p> <p> 友達の考えを聞くことで、友情も大切だけれど、家族のことも大切に考える必要があると思ったよ。今回のように迷うときには、いろいろなことをよく考えれば、どちらかを大切にすることでなく、どちらも大切にすることだってできることに気付いたよ。</p>	<p>◆ 二つの道徳的価値の間で生じる問題を友達や教師との「学び合い」を通して考える中で、自分の考えを深めたり広げたりできたか。【発言、ワークシート】</p>
高 め る (5)	<p>5 導入で提示した判断に迷う問題場面の状況を再考させ、今の自分ならどうするか理由や根拠を考え、主体的に判断する。</p> <p> 困っている友達と自分との状況を比較して、相手が深刻だったらそっちを優先して助けたい。家族には後で事情を説明するよ。</p> <p> 周りを歩いている大人がいれば、友達のことをお願いする。今後は、友達も家族も大切にできるように、様々な状況や相手の気持ちなどをよく考えてから、判断することが必要なことだと思ったよ。</p>	<p>○ 導入時に提示した判断に迷う問題場面について、本時で考えてきたことを生かして再考することで、様々な状況や相手の気持ち等をよく考え、判断しようとするなど、主体的に新たな考え方やよりよい解決方法を見いだすことができるようにする。【主】</p>

育成を目指す資質・能力

友達と家族との間で生じる問題場面で葛藤する中で、自分事として判断理由や根拠について考えたのち、友達や教師との「学び合い」によってその考えを深めたり、広げたりすることを通して、道徳的な判断力を高め、主体的に実践を行うことができるようにする。

働かせたい「見方・考え方」

見方(～に着目して)

考え方(思考の枠組み・方法)

二つの道徳的価値の間で生じる問題を考える際の判断理由や根拠に着目して、自分の生活経験と結び付けて考えたり、友達や先生との「学び合い」を行ったりする中で、自分だったらどうすればよりよく課題を解決できるか考える。

「見方・考え方」を発揮した子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「見方・考え方」



自分があきらさんだったらどうしますか。理由とともに考えてみましょう。

私なら先に家に帰ります。なぜなら両親を心配させてしまうから。



家族の気持ちに着目して、「家族愛, 家庭生活の充実」に関わる自分の生活経験と関連付ける。



帰りが遅れると、両親との約束を破ることになり心配させてしまいますね。

でも、かずおさんは鍵が見つからないと、両親とも遅くに帰ってくるから家に入れなくなるよ。ぼくは、困っている友達をそのままにはできないな。



友達の気持ちに着目して、「友情, 信頼」に関わる自分の生活経験と関連付ける。



鍵が見つからなかった場合、かずおさんは家に入れず、大変困った状況になりますね。両親のこと、かずおさんとの友情、どちらも大切ですが。

両親を心配させたり、自分がしばらく自転車に乗れなくなったりすることも嫌だけれど、かずおさんの方が深刻な問題ではないかしら。



家族, 友達, 自分の状況や気持ちに着目して、自分と友達の感じ方や考え方を比較・整理する。

ぼくならいったん家に帰り、両親に事情を説明する。両親も安心するし、一緒に鍵探しを手伝ってくれるかもしれない。



両親のことも、かずおさんのことも大切に考えたことになりますね。

私は最初、両親のことを優先しようと考えていたけれど、友達の考えを聞いたことで、かずおさんの鍵がないことの方が深刻だから、友達を優先しようと思っ直したよ。今後は何を優先すべきなのか、よく考えて生活したいと思った。



「学び合い」により自分たちで考えたよりよい解決方法に着目して、よりよいと思った考えと自分の実生活とを関連付ける。

今後ぼくは、そのときの状況や問題に関係する人たちの気持ちやなどを幅広く考え、よりよい判断をしていきたいと思った。



様々なことを考えて判断し、よりよい解決方法をとることが大切です。これからはそうしたことを意識しながら生活してみてください。

振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- 自分や家族のことだけを考えて行動すると、もっと困っている友達のことを放ってしまうことになり、大変なことが起こるかもしれないので、今後は何を優先すべきなのかをしっかりと考えて行動していきたい。
- これからは、そのときの状況や周りの人の気持ちなどをよく考えて判断し、よりよいと思う方法を選ぶことが大切だと気付いた。
- 複数の問題に同時に出合ったときには、どちらか一方を選んで解決しようとするのではなく、幅広く考えることで、どちらも解決できることがあるかもしれないと思った。今後は、いろいろな面から物事を考えていきたいと思った。